



# 森のなかま

2012年 2月号

NO.46 (継続191)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

恒例の山の神祭&会員の集い (今年はフレッシュ12期生歓迎会)  
参加者 89名 盛況裡に開催される。

事務局長 竹島 明



寒さ厳しき平成24年1月15日(日)、毎年恒例の山の神祭&会員の集い(12期生\*新インストラクター歓迎会)が89名という大勢の会員の皆様方の参加の下、盛大に執り行われました。9時30分、小田急新松田駅で湘南富士急バスに乗り込んだ一行は一路私達のフィールド、やどりき水源林へ。

今年の会員の集いは昨年11月19日に新たに神奈川県森林インストラクターに認定された12期生32名の歓迎を兼ねるとあって参加者はこれまでの最大で、バスも2台増便。加えて今年は(財)かながわトラストみどり財団、伊藤専務理事、みどり森林課 内海課長のご参加もいただき今回の催しに花を添えて頂きました。

10時、一行はやどりき水源林の祠の前に参集し、森林文化部会、武者直氏の祝詞奏上後、会、トラスト、1期から12期まで祭壇に玉串を奉奠し、この一年の山仕事の安全と、森林づくりボランティア活動のさらなる隆盛を祈念した。午後からは毎年お世話になっている地元松田町の「わたや」さんで会員の集い、4期の仲野三男氏のご発声で乾杯。参加した12期生から一人ずつ自己紹介と活動の抱負を語っていただく。そしておとりとして、

6期の斉藤武久さん(日本コロムビアレコード専属吟詠歌手)に新年の企画にふさわしい「宝船」の詩吟をご披露いただき、盛況裡に終宴することができました。

ご参加いただいた来賓の皆様、多くの会員の皆様に感謝するとともに、準備に携わっていただいた森林文化部会、事務局の皆様感謝しつつ報告とさせていただきます。ありがとうございました。

左の写真：右から足立さん、その隣、今年10月90才を迎えられる益々お元気な仲野さん、そして、神主役の武者さん、後方で腕を組まれてる方は本誌「私の認識」連載中の高橋さんです。



直会（なおりい）；祭りの後で参加した皆さんが一同に会し、神前に供えて神様が召し上がったお神酒やお供え物を飲食する。すなわち、神様と共食することで神様の偉大な霊力を自分の身に得て、その恩恵にあずかると言う大事な意味を持つ行事です。

## 直会風景



フレッシュ 12期生勢ぞろい

## 私の抱負

石川裕一<12期>

お世話になっております。このたび仲間入りさせて戴いた12期の石川裕一です。宜しくお願い致します。私は、小田原で森林ボランティア活動「森のなかま」に参加して3年近く経ちます。定例活動は第2,4日曜日ですが、私の参加率は半分ちょっとでしょうか。多いときで月2回山へ行っていたのが森林ボランティアを始める契機でしたが、森への関心が高まるにつれて山行回数は減りました。養成講座期間中は、田代道彌さんの自然観察会に夢中になった時期と重なったこともあり、

ますます山歩きから遠ざかりました。興味の対象が永年続けてきた山歩きから新しく始めた森林活動に移ったと言う事でしょう。「森のなかま」に籍を置いている先輩方には神奈川県、全国インストラクターが大勢居られます。先輩方の活動状況の一例を紹介します。Aさんは、インストラクターとしてバリバリ活動していて、小田原の森には極まれに（飲み会は必ず）現われますが、B町有林にはよく現われます。Cさんは、県民参加の森林づくりでよく見かけますが、小田原の森では逢ったことがありません。Dさんは、時々、県民参加・・・で活動し、B町有林で月2回の間伐を行っていますが、小田原の森では姿を見た事はありません。Eさんは、大部分を森林ボランティア活動に、一部をインストラクターに費やしています。等々、どれかにウエイトを置いている（あれもこれもは難しい）ようです。私も欲張らずに勤め人のうちは、できる範囲で県民参加の森林づくりやインストラクターとしての活動「湘南二宮竹の会」等12期とオリジナルの活動に重点を置き、「森のなかま」、B町有林活動を通して、「森林づくり」を行っていきたいと考えています。毎日が日曜日になった後は、上記活動の幅を広げ10年ぐらいはやりたいと考えています。また、平日でなければできない活動にも挑戦しようと考えています。山へ行く時間も作れるでしょう。そして木を伐る体力がなくなったら、苦手な自然観察を通じて「森林づくり」に貢献できればいいな。そのためには今は木を伐りながら動植物に目を向けて知識を増やしつつ準備を進めていきたいと考えています。

写真：鈴木松弘（広報部）

## 安全管理委員会 救急搬出研修報告

安全管理委員会 滝澤洋子



2011年12月18日に『野外活動における骨折・切り傷など外傷の応急処置と山から「自力での」搬出方法』の研修をやどりき水源林で行いました。(参加者33名)

これまでも旧かながわ森林づくり公社やかながわトラストみどり財団による救急法などのBU研修、また森林部会主催で救急法や搬出法などの研修が会員向けに行われてきました。事故の無い事が一番ですが、いざ必要となった時にスムーズに対処すれば、傷病者のその後の治療に良い結果をもたらし、また傷病者に安心を与えることにもなります。心肺蘇生法などは時々改訂されますし、その他の手技も繰り返し復習していないと、一刻を争う時にうまく動きません。今後もこのような研修

に何回でも参加して、自信をもって行えるようにして頂ければと思っております。

また、今回は会員の他、やどりき水源林で活動している森林再生パートナー・水源林パートナーや新定着型ボランティアのいくつかにも参加のお誘いをしたところ、「かながわトラストみどり財団」と「やどりき水源林づくり21」から数名が参加され、会員と一緒に研修を受けました。

本研修講師の武川俊二氏および各班で講師補助をして頂いた加藤逸平氏、浦野稔氏、大道辰夫氏、高橋修氏、また撮影記録をして頂いた金森巖氏に感謝いたします。

### 【主な講義内容】

**一次救命の必要性** 呼吸停止後1分以内に人工呼吸を行えば98%以上戻るが、4分後には50%に下がる。呼吸が止まって4分くらいで心臓が止まり、脳細胞に重大な障害を残す。

傷病者(救助対象者)が出たら・・・

まず**状況判断**(10秒間で、自分や救助者・周囲の人々・救助対象者の**安全**と傷病者、救助者の**人数と原因**を判断する。)

次に**初期評価**(生命の危機に係わる損傷があるかないか判断する。呼吸系・循環系・神経系)

緊急を要しない状態であれば**全身の観察**(全体像の把握、部所を知る、原因・病因を知る。)



### 【野外活動中を想定した実習】

- ・怪我をした場合の傷の洗浄方法、止血法、足の固定、三角巾を使った新しい腕のつり方(固定し易い)、足首のねん挫の対処法等。
- ・搬出方法(自分の普段使っているザックを利用した方法、衣服を利用した担架の方法等)

- ・ダミー人形を使った心肺蘇生法。硬式テニスボールを利用した胸骨圧迫の確認方法など。

※三角巾で腕をつる時は、掌は体側を向けて下さい。

※心肺蘇生法はJRCガイドライン2010がインターネットでも検索できますので、ご覧ください。



写真提供：金森 巖氏 (10期)

## かながわ森林インストラクターの技能向上を目指して

森林部会部会長 浦野 稔



梯子を使用した枝打ち

### 1) 人工林整備技術研修会～密度管理と枝打ち編～を実施

間伐本数を決める時の密度管理について実践を通じた理解、また梯子を使用した高所での枝打ち作業の体験、2つの目的で研修会を実施した。

H23年12月11日(日)に会員21名が参加、研修場所は後沢出合いから30分登った、やどりき水源林ボランティア林A上部を使用させて頂きました。

密度管理は鋸谷式マニュアルにより実施しました。間伐の役割は本数密度を調整して1本1本に光をうまく配分することです。間伐を怠れば密度が高まり成長が衰えてきます。一定面積の中で健全に成長できる木の本数を判断する際に胸高直径を基準とします。道具は振り出し式の釣竿と巻尺だけです。長さ4mの釣竿を使い半径4mの円を描くと面積は50㎡、この円内に成立している全数あるいは標準的な木の直径を測ります。例えば直径18cmの木が50㎡中に9本成立していたとすると6本を残して3本を間伐する。このような管理を続けることで下層植生が豊かで上層木が災害に強い形状となり、良質の木材生産と治山効果が高い健全な森林が形成される、としています。

このような密度管理の基礎となる調査を4グループに分かれて行い、直径と樹高を測り記録し平均値を出し、現在の森林の状況を数値で把握します。その結果に基づいて間伐に入る訳ですが今回は調査だけです。数値を基に正確で客観的な判断が可能となり、同時に何本間伐するのが適切かなどについての説得力が増します。調査前にイメージしていた森の状態が実際に調査した結果違っていた、という気付きもありました。経験を積む事によって森を見る力が確実に養えそうです。

梯子を使った高所枝打ちはボランティア活動ではほとんど行われませんが、その時に備えることも必要です。今回は高さ1.5mの1段ハシゴに加えてアルミ製の「木登りステップ」なるものも併用しました。高さが2mを超えるので安全帯着用、これら道具の安全な使い方もお互いに確認しました。さらに枝打ち作業で求められている「枝座を残した正しい枝打ち」を2m以上の高所でそれぞれ試してもらいました。どこまでが枝座(枝隆)か、樹皮との違い、1本1本の枝での違いなど、なかなか難しいものですが再確認することができました。

2つとも森林整備において不可欠な技術であり、ボランティア活動の現場で活かされることとなります。

### 2) 竹林整備技術研修会(H23年度第2回)を実施

前回研修会の様子を「竹は木ですか？草ですか？」に始まる内容で本誌9月号にご紹介しましたが、第2回目を11月28日(月)に実施しました。今回研修の場所は、なんとゴルフ場の中です。広々したフェアウェイに隣接して、OB杭の外側に密生したモウソウの竹林が広がっています。ここを研修場所として、川崎国際生田緑地ゴルフ場、および川崎市公園緑地協会のご好意により使用することが出来ました。当日は市民開放日ということでゴルファーではなく家族連れなどが各種のイベントと手入れされたコース内芝生の散策を楽しんでいました。

参加インストラクターは講師を含めて21名、竹に関する全般的な講義に続いて伐採から整理までの

実践を行いました。一番の重労働は、伐採した竹を集積・整理する場所への運搬でした。指定場所は100mほど離れた10mは登らなければならない個所にあるためです。

他の人への指導は自分がやれることしか出来ません。より良い指導が出来るようにするには多くの経験を積んで技術の向上をしていくしかありません。参加の皆さんには、牛馬のごとく(?)竹を引きずりながら行き来したことを恨むことなく「これも経験のうち」と理解していただけることを、企画した者として願っています。



写真提供：浦野 稔氏

## 私の認識

## 野鳥その96

## 高橋 恒通

今月は第96回、満8年目の節目ですので、我国で観られるフクロウ科の野鳥の中で唯一、天然記念物で特殊鳥類に指定されている留鳥のシマフクロウ（漢和名：島梟、英名；Blakistons Fish-Owl、体長L=71cm）についてご案内いたします。

体色は頭頂部から上背面が灰褐色地に黒褐色の縦斑（軸斑と表現している図鑑もある）を密に置き、風切は灰褐色地に灰白色の横斑が入ります。体下面は喉下に濁白色の細い横線、そして胸前から下面は灰褐色地に黒褐色の細目縦斑を粗に置いています。色合いには多少の個体差があります。

シマフクロウの羽角（耳羽）は、トラフズクやワシミミズクのそれとは形が少し異なり長く幅が広いので、ワシミミズクと見間違える事の無い大きな特長だと認識しています。

虹彩は黄色で嘴は黒色です。



フクロウ科の野鳥の中で最大の体長を誇るシマフクロウは、2才児位の背丈があると言われています。

我国でのシマフクロウの棲息環境は、海岸、湖沼、河川や魚の多くいる池などの近くの林で、一年中を通してつがいで行動

するのが多く、一羽だけで行動するのも居ります。

つがいは非繁殖期中でも一年を通してよく鳴き交わします。多くは♂が先に発声し♀が直ちに鳴き返すパターンだそうです。

繁殖期の夜に♂は野太く低い声で“ウォーウォー”と鳴くと、間髪を入れず♀が“ウーウー”と♂より低い声を出し鳴き交わします。

昼間は林の中でジッとしていて、夕暮れから活動を始めます。

英名の Blakistons Fish-Owl にある如く、“魚食性”のシマフクロウは魚を主食としますが、水辺が結氷する冬期では哺乳類や鳥類も捕食します。また夏期には魚以外にカエルも獲る場面も確認されているそうです。

図体の大きいシマフクロウは、大木の樹洞に巣材無しで営巣するのですが、我国で彼等の棲息域に大木の樹洞が少なく、近年急速に個体数を減らしており絶滅の危機に瀕しているのが現状だと私は認識しております。

保護活動として大形巣箱の設置などWWF-Jなどが中心になって対応しております。

我国では北海道北東部の原生林が棲息域で、個体数が少ない為、近親交配の悪影響で一段と数を減らす傾向を指摘する識者も居ます。

シマフクロウの世界地図上での棲息域は、中国東北部、ウスリー、サハリン、千島列島と限られた領域です。

<94>稿のワシミミズクの世界地図上での棲息領域と比べると桁違いの狭さなのです。

古来よりシマフクロウは、アイヌ語で「コタンクルカムイ（村を守る神）」と呼ばれて住民から崇められてきたと言われてはいますが、今では同じ北海道でもタンチョウと比べて、相当に高い確率で絶滅の場面が現実になるのではなかろうか・・・と言われております。

ご承知の通り、タンチョウは国の特別天然記念物と特殊鳥類に指定され、加えて北海道の道鳥です。ですから各方面から手厚い保護活動で絶滅は免れそうです。

姿や仕草が優美で、おめでたい鶴を慈しむ人情の自然は十分理解できます。であるなら容姿や仕草は異っても、フクロウ科最大寸法のシマフクロウを特別天然記念物に格上げ指定し、トキ並の保護活動に環境省が注力して戴けます様に私は切望しております。

## &lt;参考資料&gt;

- ◎山溪カラー名鑑 日本の野鳥 編 高野伸二  
解説 浜口哲一他3名 山と溪谷社
- ◎鳥630図鑑 財団法人日本鳥類保護連盟
- ◎フィールドガイド日本の野鳥 野鳥ブックス②  
高野伸二著 財)日本野鳥の会
- ◎日本の野鳥 山溪ハンディ図鑑7  
写真・解説 叶内拓哉  
分布図・解説協力 安部直哉  
解説(鳴き声) 上田秀雄 山と溪谷社
- ◎イラスト シマフクロウ 大塚晴子(広報部)

## お詫びと訂正

2012年1月号NO,45 5ページ 村田江里子様  
の文面、下から6行目から下の部分は、下から16  
~11行目とダブって掲載されています。下の文章  
は削除をお願いします。今後このような事のない  
よう気持ちを引き締めて編集いたします。(M)

## 活動短信

11/6~11/18

## 2011 フローレンス ガーデン感謝祭

**日** 11月6日(日) 10時~16時 曇時々雨  
**場** 工藤建設株式会社 駐車場  
**参** 622名(内子供207名)  
**イ** L永野⑥(主催者) 米本②、宮本④、柏倉④、千葉⑦、中島⑨、

＜主たるテーマ＞ 主催者の戸建輸入住宅を建てられた顧客OBに対する感謝祭を行い、その中で森のコーナーを設置して「水・森・環境の大切さ」を知ってもらい併せてクラフト工作で楽しく遊んでもらう。

＜支援内容＞ 森のクイズと紙芝居により『水・森・環境の大切さ』(特に森林の果たす役割)を理解していただいた後、次の活動に取り組んでもらった。①どんぐりトトロ ②シュロバッタ  
 子供とその両親・祖父母の三世代にわたる人達の熱心な取り組みが見られた。特に子供達のドングリや木の実、枯れ枝等を使ってつくる“トトロの世界”は大好評であった。これには中島さんの用意周到な準備があったこと付記しておきたい。  
 (記 4期 柏倉)

## 愛川ふれあいの村

## 高取山から仏果山登山

**日** 11月7日(月) 8時半~16時 晴れ  
**場** 愛川ふれあいの村から仏果山  
**参** 横浜市立浅間台小学校4年生、5年生 83名  
 教師 10名  
**イ** L堀江④、佐藤⑤、滝澤⑤、武者⑦、久保⑧、松村俊⑧、

朝から秋晴れの好天に恵まれ、子供たちも登山の期待に大いに胸を膨らませながらも、これから登る山への不安もあるようで、なんとなく落ち着きが無い。前日雨が降り、登山道の影響も心配されたが、比較的安心して登れる状況でまずは一安心。途中で各班が人工林の話や水源林の話、道端の秋の花などを子供たちと話しながら高度を上げ11時頃には先発班が高取山の山頂に到着。展望台からの大景観に歓声を上げる。(丹沢の山々をはじめ眼下の宮ヶ瀬湖、宮ヶ瀬ダム、そして遠く東京や横浜のビル街など) 全班が山頂へ到着し早お昼を済ませ、別の学校の到着があるため山頂を後にする。

仏果山でゆっくり休憩を取り下山。ここからはかなり長い下りになるので、各班に足元の注意を促し出発。出来るだけゆっくり、安全に降りることを子供たちにも指示したため、あわてることも無く落ち着いて時間通りにふれあいの村に到着できた。

登山道には、まだヤマビルが生息しており休憩ごとの確認をおろそかにはできなかったが、おかげで被害が出ずホットした。

学校の行事には、先生や参加インストラクターの協力が不可欠で今回も多少のトラブルはあったものの全員が無事ふれあいの村に到着出来たことは成功であった。(記 4期 堀江)

## パートナー林保全活動

## ＜間伐・自然観察・クリスマスリース作り＞

**日** 11月12日(土) 10時~15時半 晴れ  
**場** やどりき水源林  
**参** 神奈川トヨタプリウス森木会  
 (プリウスユーザー) 32名  
**スタッフ** 10名  
**県** 自環保水源の森林推進課 内田、後藤  
**看** 1名  
**イ** L小野⑦、永野⑥、白畑⑦、三浦⑧、酒井⑩、柴⑪、

間伐、自然観察、クリスマスリース作りなどを全員で体験し水源林の自然にふれ、森林の役割を理解頂く目的で今回で24回目となる。間伐3名・自然観察2名・リース作り1名のインストラクター配置で、間伐の場所はプリウスパートナー林上部のJAヤードとしたが、枯木が多く危険な為作業前に我々3名で4本伐倒した後、2回に分けた計32人で3本切倒し枝打、玉切の上一部を来年度用に集積した。

観察班は林道終点までの往復で紅葉を愛でながらの散策、リース作りは葛のつるや檜、杉の枝に松かさやどんぐり等を配置してなかなかの出来栄でした。

渋滞での遅れや辞退者が出た事で当初計画での班編成、スケジュールに変更が出たもののトヨタスタッフの臨機応変の対応で事故も無く無事終了したことが何よりでした。(記 7期 小野)

## パートナー林保全活動(間伐)

**日** 11月12日(土) 10時~12時半 晴れ  
**場** やどりき水源林・キリンビールパートナー林  
**参** 同社横浜工場及び関係会社社員 122名  
**県** 自環保水源の森林推進課 内田、後藤、  
**イ** L浦野⑧、佐藤⑤、武川⑥、戸谷⑥、渡部⑦、有坂⑧、飯澤⑨、小沢⑨、福島⑨、高橋⑨、青木⑩、小笠原⑩、松本⑪、山下⑪、徳岡⑪、福島⑪

同社パートナー林は1,26haの広さだが122名を15班に分けて入るとさすがに混みあう状態となる。樹高16m前後のヒノキの間伐では安全な距離を取ることが出来ず、上下作業、近接作業とならざるを得ない。そのためにロープの使用、ツルを確実に残す、伐倒時の退避その他安全確保を徹底して作業を行って頂いた。それでも落石がかすめる、退避した場所に梢がかすめるなどのヒヤリ・ハット事例があったが無事終了してリーダーとしては本当にホッと、また参加者に対しては、待機や退避に時間を費やすなど、安全作業への協力に感謝を申し上げました。作業内容に見合った

適切な参加人数・班の数などを制限する必要があることを感じ、企画段階から対応できるように関係者に今後の検討をお願いしているところです。

(記 8期 浦野)

### パートナー林保全活動

#### <間伐・自然観察・クリスマスリース作り>

**日** 11月13日(日) 10時～16時 晴れ  
**場** やどりき水源林  
**参** 神奈川トヨタプリウス森木会 43名(子供多数)  
**スタッフ** 10名  
**県** 自環保水源の森林推進課 内田、後藤、**看** 1名  
**イ** L山崎⑦、相馬⑤、斉藤⑥、白畑⑦、金森⑩、一重⑪、

パートナー活動2日目、秋晴れに恵まれ絶好の体験活動日和になりました。参加者43名がAグループ、Bグループに分かれ、午前の部、午後の部と交代しながら間伐、自然観察、リース作りを体験し、間伐では傾斜の急な場所での作業でしたが、参加者の皆様はヒノキが倒れる瞬間の感動を味合い、又掛かり木になって全員で力を合わせロープを引き、ヒノキを倒し皆様拍手喝さいでした。玉切りしたヒノキでお土産用にコースターを作り、笑顔がいっぱいでした。

クリスマスリースは大盛況で少し時間がずれ込んでしまいましたが、自然観察班が上手くフォローしてくれた事で無事にスケジュールがこなされ安堵しました。参加者からは間伐、リース作り、自然観察の体験が出来るとても良かったと次回も是非参加したい、楽しかったと言う声が沢山聞かれました。その事に私達インストラクターのメンバーもトヨタプリウス森木会スタッフも嬉しく思います。

最後にリーダーの山崎さんより子供達にドンダリのストラップを1個づつプレゼントされ子供達は大喜びでした。参加者、全員満足して帰路につかれ活動を終了しました。(記 11期 一重)

### 自然観察部会・森林探訪「弘法山」

#### <タバコの里の紅葉を訪ねて>

**日** 11月13日(日) 9時～15時 晴れ  
**場** 秦野～権現山～弘法山～鶴巻温泉  
**参** 一般募集 76名(男性25名・女性49名 子供2名)

**財** 河野  
**イ** L鳥飼⑪、友谷①、鈴木③、武者⑦、三浦⑧、内野⑨、女川⑨、小林保⑨、小林富⑩、杉崎⑩、上野⑪、松永⑪、

秦野駅南口の公園でオリエンテーションの後、弘法山を目指して出発。弘法の清水と水無川の河川敷は、丹沢山地がはぐくんだ森の水とその行方を観察するには絶好の地だ。

金目川を渡ると、権現山への登山道にとりつく。さっそく、シロヨメナ、ノコンギク、コウヤボウキ、ヤクシソウなど、キク科の花々が迎えてくれる。さらに登れば、ガマズミ、ヤマコウバシなどの美しい木の実が秋の光を受けて輝く。

参加者の歓声は、富士山を背景に箱根の山々、金時、矢倉、丹沢の峰々の眺望への賛辞だ。眼下に広がるのは、300年前の富士山の大噴火がもたらした、火山灰の上に生まれたタバコの里。

その往時のタバコ畑を偲びながら、かつて草競馬が行われたと言う馬場道で昼食。なお山道を進むと、毛槍千本をたてた大名行列の姿に出会い、真っ赤な「かのご菓子」を見つけ、秋の深まりを一層感じる。木の実の中に潜む、アンモナイトや打ち出の小槌の発見は子供だけでなく、大人たちにとって楽しい驚きだった。

「弘法の湯」裏手の公園で、楽しい一日を締めくくった。(記 11期 鳥飼)

### 足柄体験学習

**日** 11月18日(金) 9時半～14時半 晴れ  
**場** 矢倉岳、足柄峠、  
**参** 横浜市立南小学校5年生103名、  
 教師ほか12名

**イ** L三浦⑧、SL上宮田⑪、鈴木③、足立④、斉藤⑥、鈴木⑥、松本⑧、内野⑨、小沢⑨、海野⑩、

地藏堂から足柄峠と矢倉岳の2つのコースに分かれて行動した。安全登山が第一と考え、「リーダーより前には出させない」を安全目標とした。

<足柄峠コース> 先人の足跡をたどり地藏堂から足柄古道へと歩を進める。鳥たちの好物、赤、紫、黄色の木の実を見つけ、その名前の由来や効能などを話すと興味深げな歓声が聞こえる。雨模様の天気が予想以上に晴れ、山頂の足柄城址では富士の雄姿、テレビドラマ撮影中の俳優陣に出会うなど、思わぬプレゼントに大興奮。宿泊研修の3日目とは思えぬ元気な子供達。「疲れたけれどとても楽しかった！」と共通の感想だった。

(記 11期 上宮田)

<矢倉岳コース> 地藏堂から矢倉岳までの標高差460mに46名の生徒が挑戦。登りには人工林の間伐地があり森の役割などを話す。山伏平から頂上までの登りはきついところだが全員登頂、富士山などの眺望を楽しんだ。下りでは度々矢倉岳を振り返り自分たちの行程に驚き、又樹林帯の下りを楽しみながら全員無事下山した。

(記 8期 三浦)



やどりき水源林  
ミニガイド

1月のトピックス



恒例の山の神祭、今年は記録が3つ参加者89名・バス2台、奉納のお神酒が祠を飛び出すほどでした。

2月の水源林



ミツマタの  
開花近し、  
H20 成長  
の森の群落  
は見事です。

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)

●集合：水源林入口ゲート前

●内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。参加自由、参加費無料

\*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(社) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

携帯：090-8580-5348  
fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

箱根ジオパークをめざして  
箱根/小田原/真鶴/湯河原  
再 発 見

～2月26日(日) 県立生命の星地球博物館(企画展)\* (巡回展) 3/1～15 真鶴地域情報センター\* 3/18～4/5 ケープ真鶴 1階\* 4/25～5/5 湯河原町立図書館\* 5/16～5/31 湯河原町役場住民ホール\* 6/30～7/22 小田原市郷土資料館\* 7/28～9/17 箱根町立郷土資料館

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。<広報全般についてのお問い合わせ> 小沢章男まで

Mail:a\_ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel:0467-52-2191

<電子配信担当> 森 義徳

〒232-0053

横浜市内南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784

Mail:shinrin\_inst.denshihaishin@gmail.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax:045-476-4112

Mail:murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax:0465-42-7240

Mai:minaqold109@plum.plala.or.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax:046-825-9281

Mail:2nahemi0818@jcom.home.ne.jp

原稿は随時受け付けてます。

～編集後記～

★旧年、世界・日本の社会情勢の変化、大地震の天災、よくもいろいろ続きました。私も大きな事がありました。今年は“辰(竜)年”12支で唯一の仮空動物です。年周りは“壬”になる。登り竜とかいわれています。過去、日本経済の躍進の年であり、古く、新幹線の開通、東京五輪もありました。さて、我々のボランティアの会は、どんな発展があるのか。いかなる変化があるのか。私も含めた会員諸氏の活躍に期待しましょう。(鈴木松)

★私の行動指針

毎日の生活の中で常に興味と好奇心を忘れずに!

もうひとつ少欲知足の心を付け加えて!! (小沢)

★もう ロウバイが咲きほこりとてもいい香りです。

1/28～2/28は 小田原梅まつり曾我梅林は富士山を背景とした景色が最高です。(水口)

★この時期、野鳥は、つがいであることが多く地味な♀の観察に毎日楽しんでます。鶴見川のオナガガモ♀です。(村井)



◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男 井出恒夫 (HP)

水口俊則 森 義徳 真貝 勝

鈴木 朗 鈴木松弘 大塚晴子



見事なシモバシラです

年末の寒い朝、家の近くにある「シモバシラ」自生地、見事な冬花を咲かせました。7期 塩谷弘道氏 提供

<シソ科シモバシラ属> 山地の木陰に生える40～70cmの多年草 冬になると枯れた茎に霜柱のような氷の結晶ができる。